

# 東日本ユニオン よこはま

JR 東日本労働組合  
横浜地方本部  
発行者/ 松田 和秀  
編集者/ 教育・広報部

## 電気部門の変革2022について提案を受ける

2月7日、支社より「電気部門の変革2022について」提案を受けました。  
提案内容は以下のとおりです。

### 1 実施箇所

横浜電力技術センター、横浜信号通信技術センター

### 2 実施内容

#### (1) スマートメンテナンス導入等によるメンテナンス業務のスリム化

架線モニタリング装置を活用し、全体として適切な頻度で検査を実施する検査体系の見直しを図る。

##### ① 検査体系の見直し

モニタリング導入に伴う、従来の検査（至近距離検査、外観検査等）や取替周期の最適化

##### ② 業務の効率化

・電車線モニタリングによる効率的なメンテナンスの実施による業務の見直し

・転てつ機モニタリング、ポイントモニタリング等による検査業務の見直し

#### (2) 技術センターにおける業務の最適化

積算、契約業務の制度及び信号技術者認定制度の適用範囲の見直し等を行い、技術センター業務の簡素化を図る

##### ① 制度の見直し

・小規模・少額工事の適用拡大、一般工事の単金化、統合作業乗率の集約等を実施

・支社発注工事の信号試験における信号技術者認定制度の適用範囲の拡大

##### ② 積算、契約業務の効率化

工事制度見直しによる効率的な積算、契約の実施による業務の見直し

##### ③ 通信システムのグループ体制見直し

効率的な業務執行体制を目指し、保全グループの再編を実施

### 3 教育・訓練

必要な教育・訓練は実施する。

変更後の標準数

### 4 実施時期

2019年4月1日実施

箇所名	長	助役	電気	計
横浜電力技術センター	1	18	112→110	131→129
横浜信号通信技術センター	1	18	94→93	113→112

### 提案の説明として支社は…

検測車（East-i）に今は架線の摩耗を測る装置は付いているが、それに加えてより性能の高いカメラを搭載して金具類の腐食状態を含めて状況を確認できる中身で、現在の検測車にそのような装置を乗せてモニタリングで検査するという進んでいる。ある程度試験は行っているが、走行130km/hくらいでも可能だと現在では判断している。夜間においても撮影が出来るというカメラを使用して進めて行くのが計画である。異常時の対応は今まで通り変わらない。今まで複雑な高度な支社発注工事は支社直轄社員が行って確認して、ある程度の内容の設備が増えてきたものについては、一部パートナー会社の方で対応していただくことになる。少ない設備・重要な設備というものを当社が担ってきたが、いろんな場所に設備が増加した観点から、一部はパートナー会社に移管することになる。学習や周知についてはパートナー会社でも体制は取れ今まで通りの確認ができています。信号技術者認定制度は当社の資格である。パートナー会社の方も認定する。考え方としては全員が触れなくてはならない。教育・訓練については確実に実施していく。設備21体制において有線・無線でテーブルを分けさせてもらったが、その後通信分野の技術が向上し融合した設備が増え、両方の技術が必要である。支社には有線・無線・保全グループがある。設計グループが有線・無線両方を担っている。保全グループを一緒にして有線・無線の垣根を無くし、お互いに技術力を高めていき効率的に業務をするようにするというのが今回の趣旨である。

**不安・疑問点解消に向け、議論をつくり出そう！！**